

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690800046		
法人名	社会福祉法人 端山園		
事業所名	グループホームいまくまの(2F)		
所在地	京都市東山区今熊野北日吉町61-10		
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyouvoCd=2690800046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyouvoCd=2690800046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階
訪問調査日	令和3年3月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設して、6年の月日が経とうとしています。併設している小規模多機能事業所との一貫した利用を通して、住み慣れた地域で生活し続けることの担い手として、地域に貢献することができています。今年度はコロナウイルスの影響により、これまで季節折々のイベントや近隣の大学や児童館との交流は行えませんでした。豊国神社内に事業所がある地の利を活かした自然のある中で入居者の方と散歩へ出かけています。ユニット内で密にならない程度でできる季節折々のイベントや誕生日会、食事会(食べたい物)を開催し、日常生活の中で楽しみを持って頂いています。今年度は協力している診療所や訪問看護ステーションと連携を図りながらケアに努め、ご入居頂いた方を最後まで看させて頂くことができました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「グループホームいまくまの」は「豊国廟石段のふもと太閤垣に誕生する地域福祉の拠点」と事業所のパンフレットにも謳われているように、その歴史的佇まいと京都市内を一望できる景観が利用者や家族から支持される利点の一つです。事業所の一番の特徴は、平均介護度3.6~3.7という重度化の中でも入院者が少なく、当事業所で最期を終えることを望まれる方が多いという事です。それには地域の診療所や訪問看護との手厚い連携があります。また職員はコロナ禍の中でも、利用者に何とか楽しいと思ってもらえる様な企画を練り実践されています。その時々生き生きとした利用者の姿を動画や無料通信アプリケーションで家族に送り安心を届けています。広報誌「いまくまの便り」下段には趣味に興じる日常や凧と花を生ける姿など利用者が輝く瞬間を捉え、利用者別に写真やコメントを添えて家族に送っています。理念に沿って利用者がいつまでも「ありがたい自分の暮らしの継続」ができるように支え、あたたかく寄り添う職員の熱心な姿勢に心洗われる思いのする事業所です。

**平成元根**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	継続してレジュメや会議録に理念の記載を行っている。それにより全職員への意識付けは出来ている。また理念に基づいた各フロアの目標を作り実践し、フロア会議にて達成状況を確認している。「ありがたい自分の暮らしの継続」を心掛けている。	法人理念に沿って～いまくまの理念～「住み慣れた地域の中で、『いつまでもありたい自分で暮らしたい』そんな思いを支えています」と定め、2階・3階の各フロア目標を定め事業所玄関に大きく掲げると共に事業所理念はリーダー会議や全体会議で、ユニット目標はユニット会議で毎月振り返っている。各家族や行政に渡す運営推進会議議事録にも毎回掲載し、広く周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や小松谷児童館・京女との交流はコロナ感染防止のため今年度は行えなかったが、地域商店の利用は継続、馴染みの関係が作れている。同町内の近隣の方と情報の交換やお芋の差し入れを行っている。	新型コロナ禍発生以前はさまざまな行事を通して地域との良好な関係が築けていたがコロナ禍以降は様相が急変し、限られた行動の範囲で出来ることを模索している。町内会の回覧板で地域の様子を知るほか、地域との焼き芋行事のために準備していた芋を近所に配布するなどして地域との関わりを保っている。以前から利用してきた商店街や老舗からの人気の品の購入や出前を通じた交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で外部に出向いての発信は出来なかったが、運営推進会議等を通じて、包括や社会福祉協議会と連携し、地域で増えつつある認知症を患いながら暮らしを継続されるケース等の話し合いを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においても書面をもって報告、ご意見いただきサービス向上に繋げている。活動報告は写真で施設内の様子を見ていただき、事故やヒヤリについては頂いたご意見を共有し話し合いを行っている。	小規模多機能型サービスと合同で運営推進会議を開催しているが、新型コロナウイルスの影響で、1回は対面で出来たが、殆どは書面会議となっている。会議の内容は事業報告・事故及び苦情報告・その他の協議事項・入居者の年齢や要介護度等であり、個人情報に配慮した上での詳細な記載によりホーム内の活動の透明化を図っている。	小規模多機能ホームと違い特にグループホームはコロナ禍で地域との繋がりが乏しくなり会議参加者との共通話題があまりありません。会議に出席予定の方や家族からの意見照会をきちんとすることで問題点や課題を炙り出し解決を図るなど発展性のある会議形式を工夫されては如何でしょうか？また議事録に記載された事故報告には事後の検証結果や対処方法までを記載されるよう望みます。

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会や東山運営協議会への参加。東山区の健康長寿推進課や生活福祉課と連絡を取り合っている。	例年行われていた各種の連携会議等は新型コロナウイルスの影響で殆ど中止となり十分な協力関係が保たれているとは言えない。そんな中、東山区地域包括支援センター運営協議会が開催され医師や民生委員等多職種が集い、当事業所からも管理者が出席し意見交換が行われた。また、消防署の協力で職員はAEDの救急救命講習を受け終了証を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修参加と、施設内でも研修を行っている。委員会議事録には身体拘束項目が記載され目に触れる機会も多く職員の意識は高い。何気ない声掛けや転倒防止対策が行動制限に当たらないか十分に話し合っている。	毎月併設の小規模多機能事業所と各フロア代表、管理者、係長とで事故・苦情・身体拘束廃止委員会を開催し議事録を作成している。参加者はいまくまの会議に報告書を挙げている。会議に参加できなかった職員は書面で閲覧し押印している。また年2回の研修は全国抑制廃止研究会の資料を用いて職員全員に周知させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記、身体拘束と同様に研修で学び、チームで話し合いを重ねている。職員の意識は高く、虐待にあたるような事がないか、また疑問に感じる事はないかユニットで常に考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については法人研修で学ぶ機会がある。支援について一般職員は関わっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分時間をとって説明を行い、同意署名いただいている。疑問や不安な点があれば随時説明を行い解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議で意見や要望を伺っている。家族来所時には全職員がコミュニケーションに努め気兼ねなく話せるよう図っている。頂いた意見や要望は会議で検討し運営に反映できるよう努めている。	現在はコロナ禍によるものか家族等からの意見が意見箱に入る機会はない。また多くの家族には電話や無料通話アプリケーションなどで利用者の様子を直接映像で送り、相互にやり取りすることが出来ている。しかしその中でも運営に関する意見はあまり出ていない。	コロナ禍で特に家族との物理的距離が遠い分、家族の思いを汲み取ることが困難になっています。「職員の顔と名前が一致しない」など、頂いた意見には気を配り、職員間で検討した結果を運営推進会議に報告されては如何でしょう。

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にヒヤリングを行い職員の意見や提案を聞いている。運営については委員会や会議で活発な協議が出来るよう努めている。必要物品の購入についても職員の意見を検討されている。	日頃から職員が意見を言いやすい環境がある。フロア会議でも利用者の処遇や行事等の提案や物品購入の要望はあるが、運営に関する意見までは聞こえて来ない。年1回管理者によるリーダーへの面談、年2回リーダーから一般職員への面談があり、意見を反映させる体制は整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員ヒヤリングの場を持ち、スキルアップ等について各自の意向を聞き、自己目標を立て取り組んでいる。個にあった就業形態の提案や有休取得の奨励を行い健康管理にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個のスキルに合わせ役職者が計画し、法人研修に参加を進めている。また施設内研修や委員会主催の勉強会でトレーニングは行っている。勉強会は職員の自主性も高められ、学び合うことでレベルアップにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	統一研修等で交流の場を持っていたが、コロナ感染防止の為、思うように図れなかった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉に出せない本人の困りごとや不安・要望を読み取り介護計画に反映できるよう努めている。安心して過ごしていただけるような関係作りを行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は連絡を密にとり、家族が安心できるように努めた。どの職員も対応できるよう情報共有し、家族の意向が組み入れられるよう話し合っている。		

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで必要なケアを見極め、本人・家族と相談しながら他サービス(訪問歯科・訪問マッサージ)の導入も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を意識して、食器洗いや洗濯物畳み、おやつ作り等の家事を担って頂き、ともに生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍に於いてはテレビ電話を活用し普段の様子を見ていただいている。家族に本やCD、生花等を持参頂き趣味の継続が出来ている。また季節を感じれる食べ物や便通改善の乳製品の差し入れも協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話や手紙のやり取り、記念日には馴染みの店から出前を注文したりと、住み慣れた地域や人間関係の継続を支援している。	コロナ禍により面会は電話、メール、リモートに切り替わったものの機器の操作などを通し関係の継続を支援している。以前馴染みの美容院に行っていた方も現在は訪問美容を利用し、利用者の意向に沿った髪色や髪型の提案をしてくれる美容師さんに本人・家族は満足されている。事業所も良いサービスを提供してくれる業者を選別している。俳画、手芸、将棋などの趣味の継続を支援する他、書道の得意な職員による書道の時間を設け、仕上がった利用者の作品をリビングに貼っている。以前参っていた近くの神社の行事“茅の輪くぐり”をホームで再現し厄除け祈願をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を構築できるようリビングの座席を配慮したり、レクリエーション等で関わり合いを持てるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域にお住まいのご家族とはご逝去後も交流はあり関係性は継続している。本や節句人形をご寄付頂いたりご支援くださっている。故人の施設での思い出を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いの把握に努め、言葉にならない思いは家族からの情報も参考にし、プランに反映させて実践している。コロナ禍で外出支援は難しかったが、閉じこもりにならないよう豊国廟への散歩を心掛け自然と触れ合い季節を感じていただけた。	利用者との日頃の会話や様子から聞き、感じたことを記録しケアカンファレンスで共有・検討し年1回ケアチェック票に記載している。状態変化があればその都度追加・更新している。ケアチェック表には家族から電話などで聞き取った事柄も反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接で聞き取った内容に基づき、暮らしの継続に努めている。生活環境面では使い慣れた家具や飾り物などを持参頂き、自宅と変わらぬ雰囲気を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの現状を記録や申し送り等で普段から職員間で情報共有し、状態変化に合わせ困難になってきている家事手伝い等も工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議やモニタリングを行い、本人が生き甲斐を持って過ごせるよう、職員の気付きや家族の希望、医療関係者の意見をプランに反映させている。	介護職のケアカンファレンス、往診時の医師の指示、訪問看護師の見解、訪問マッサージ師の役割などを総合的に勘案し、家族の支援も加えて全体的に本人の思いを尊重した介護計画が作成されている。3か月に1度フロア会議でモニタリングを行い計画の進捗状況を見直し記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況はユニット会議で話し合っている。また必要に応じて随時検討したことは記録し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	趣味に合わせた観劇や買い物同行・地域教室や同窓会への参加等は例年行っていたが、今年度はコロナの影響で断念せざるを得なかった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	28群と同様に、コロナの影響で地域行事や教室は開催されず。		

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の連携診療所の定期往診に加え、家族の希望があれば他病院(専門分野)への受診調整も行っている。また、歯科往診と訪問マッサージも希望に応じ対応している。	かかりつけ医の月2回の往診、週1回の訪問看護師の訪問と夜間オンコール体制がある。以前からのかかりつけ医の診療を継続している方もあり、通院後は受診結果を家族から聞き情報共有をしている。入退院の際の医療連携も行っている。歯科医の訪問は毎週1回あり、職員は月1回歯科衛生士による口腔衛生指導の研修を受け、毎食後利用者の口腔ケアをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携を図り、定期的訪問日には日々の様子等細かく情報を伝え、生活相談や体調不良時の受診相談が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや医師・看護師と情報共有し、またカンファレンスで十分話し合いスムーズな退院が行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に係る指針」を作成、入所時に説明している。終末期には連携診療所の医師から家族に説明があり、本人や家族の思いに沿った支援に努めている。緊急時や看取りケアではフローチャートを作成し職員が不安なく携われるよう図っている。	「重度化対応に係る指針」は作成しているが、看取り指針は整備していない。主治医との連携のもとで昨年1人看取っているが、加算への条件整備が整わず看取り加算料は頂いていない。包括支援センターがリモートによる看取りの研修を実施し、その基礎と応用メニューを履修済みの職員があり今後備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートを作成し備えている。消防署による救命講習会を毎年実施し、勉強会も定期的に行っている。		

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と風水害時の垂直避難訓練を実施し、訓練時に生じた課題は防災委員会を中心に常に解決できるよう取り組んでいる。また地域の避難所として貢献できるよう備蓄品の充実を図っている。	年2回の消防訓練のうち1回は夜間想定で利用者と共にフローチャートに沿って実施している。他に土砂災害を想定し3階への避難訓練も実施した。コロナ禍にも関わらず消防署員が来所し職員は直接指導を受けることができた。水、携帯食、レトルト食品、カセットコンロ、家族から頂いた非常用食料などの備蓄の他京都市からもマスク、石鹸、体温計などの支給があり保存している。前述(外部(4))の通りAED講習も受講し緊急時に備えている。地域とはコロナ禍の影響により連携は希薄になっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループ統一研修や施設内研修を受講し、委員会やユニット会議の中で職員の言動を振り返り、人権やプライバシーに配慮できているかを取り組んでいる。入浴等の同性介助については、可能な限り調整している。	職員は人権及び虐待について定例の研修を受けている。「イライラしたときは1呼吸おいてみる」など実用的なノウハウも盛り込まれている。個人情報・プライバシー研修も2月に実施している。日常的には目の高さで利用者と対話する、入室時のノック、呼称は名字で呼ぶなどに気を付け会議で不適切事例を振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位にならないような声掛けを心掛け、話しやすいようにコミュニケーションの場を増やし本人の思いや希望を表出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	37群と同様。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は職員が一方的に決めるのではなく一緒に選んでいる。鏡を見ながら髪を整えたり、訪問理美容利用時は家族と相談しながら、その人らしい髪型にして頂いている。		



京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの食べたい物を聞き取り、食事レクやおやつ作りを計画している。食事の盛り付けや片付け等職員と一緒にいき、日常の穏やかな雰囲気を中心掛けている。家族には好物の差し入れを協力いただいている。	利用者の意向を聞き取り、季節ごと、月ごとの行事や誕生日に合わせてお好み焼きやたこ焼きなど利用者の好きなものを作ったり、昔から鼻負にしていた店から出前を取ったり、商店街の美味しいコロッケ、餃子などを味わっている。また手作りおやつや和菓子屋の菓子なども味わっている。盛り付けは新型コロナウイルス対策のため職員が行い、簡単な野菜切りや洗いものなどを利用者と共におこなっている。普段の副食は食材宅配会社の食材を使うが、ごはんのみはホームで作っている。朝は以前はパンかごはんかを選択されていたがいつの間にかごはんが主になってきている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録シートを活用し把握に努めている。摂取量等で課題のある時は主治医に相談し、捕食や野菜ジュース等を家族に協力いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診・歯科衛生士による口腔ケア指導の下、取り組みを行っている。委員会活動を通して、情報共有や取り組みの振り返りを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して、1人ひとりの排泄リズムやパターンを把握している。排泄表だけでなく、利用者の表情や動きを見ながらトイレ誘導を行っている。ADL低下に伴い排泄用品の活用は増えているが、一部布パンツに改善した例もある。	殆どの方はリハビリパンツを使用し、排泄表の活用により、排泄リズムを把握して声かけやトイレ誘導をおこなっている。昼夜共に完全自立の方は2名おられる。夜間だけオムツの方は3名で、夜間ポータブルトイレ設置の方はあるが、尿意により目覚めるため殆どトイレを使用されている。極力トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼りがちにならず、飲み物等(牛乳やヨーグルト)の提供で工夫している。また散歩やラジオ体操で適度な運動を心掛けている。		

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間を固定せず希望に合わせて柔軟に対応している。事業所の個人浴槽で対応が困難な方は本体施設(端山園)の特殊浴を利用するケースもある。	入浴は以前は朝早くや夕方に入られる方もあったが、今は昼間の希望となり週2回入浴している。利用者ごとに湯を入れ替え、好みの入浴剤やゆず湯などの季節湯を取り入れ楽しい雰囲気を入浴できるように支援している。入浴拒否の方はおられない。介護度が高く個人浴槽に入るのが難しい方が2名おられ、普段はシャワー浴であるが時折同じ法人の施設に出向き特殊浴槽にゆったり浸かって貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前はリラックスできる音楽を流したり、冷え症の方には足浴を実施して気持ちよく眠れるように配慮している。日中の休息にはソファでお昼寝できるような環境を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイリングし職員がいつでも確認できるようにして準備の際は見ながら行っている。また複数人で服薬確認できるチェック表や、処方変更時は申し送りノートを活用し、全員が把握できるように仕組みを作り努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常は食器洗いや雑巾縫い等の家事で役割を担ってくださったり、趣味のカラオケや将棋を楽しまれている。季節を感じられる食事レクや豊国廟境内の散歩、唱歌を歌ったりして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的に外出や外食・買い物も本人、家族の希望に添えるよう行っていたが、今年度はコロナの影響で行えず、外出については日常的な豊国廟の散歩にとどまった。馴染みのお店から出前を利用したり、食べたいものを可能な限り食事レクで対応した。	新型コロナ感染症のため、今までおこなっていた外出、外食、買い物などが出来なくなったが、自然に恵まれた環境にあるためほぼ毎日広い豊国廟を散歩し季節ごとの自然を感じる事ができている。近隣ではあるが車中ドライブもおこなっている。家族との病院受診時に外食などをされている方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者によっては財布を自身で管理され買い物支援等で自身で支払っておられる。コロナの影響で外での買い物は出来なかったが、事業所内サロンにお菓子販売コーナーがあり、一部のご利用者に限られるが買い物を楽しんでおられる。		

京都府 グループホームいまくまの(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者によって携帯電話を使用されている。事業所電話の取次ぎも行っている。家族や友人と手紙のやり取りをされたり、暮れには年賀状を書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常は花を飾ったり、お香を焚きリラックスできる環境を心掛けている。正月や節句等は季節を感じられる装飾を工夫している。他者からの干渉なく過ごせるスペースも玄関横に設け、よく利用されている。	明るくゆったりとしたリビング西側の大きな窓からは市内を一望できる風景が広がり、照明は落ち着いた暖色で、壁には利用者作のじみ絵や季節を感じる作品が飾られている。コロナ対策としてテーブルを増やし、利用者同士の間隔を広く取っている。加湿器は4台設置し、換気のため窓は常時少し開けている。玄関の観葉植物は来客を和ませ、玄関近くのソファで横になり寛ぐ利用者の姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在はソーシャルディスタンスを保ちながら、思い思いに過ごせるようテーブルセッティングを行っている。居室に引きこもりがちにならないよう、リビングや玄関横のソファで休める工夫も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力いただき使い慣れた家具や思い出の品・家族の写真や趣味の作品等を飾り、自宅の雰囲気になら近づけ居心地の良い居室になるよう工夫している。	窓から豊国廟の自然に囲まれた景色をみる事ができる。居室は畳敷で和室として使用できるが、最近では利用者全員がベットを希望されている。ベット、防災カーテン、エアコン、クローゼット、洗面台は備え付けであるが、自宅で使っていた馴染みの家具やテレビ、ラジカセなどを置き家族の写真や趣味の手作りの物などを飾り居心地良く過ごせるよう利用者それぞれに工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷わずトイレに行けたり、自室に帰れるよう目印になる工夫をしている。ADLの変化や希望に合わせ、家族と相談し安全に過ごしていただけるよう環境を整えている。		